

太陽電池一体型シースルーガラスの設置事例



北海道上砂川町新庁舎の町長室窓に設置された太陽電池一体型シースルーガラス (2021年4月設置)

2021年5月22日付 北海道新聞に掲載

町長室窓に太陽電池

■ 上砂川

【上砂川】2階にある町長室のガラス窓2面には、黒い粒がびっしり並んだ15坪四方のシートが200枚ほどはめ込まれている。黒粒の正体は、町内に事業所がある1(京都)の太陽電池だ。町は誘致企業である同社の支援と、全域停電(ブラックアウト)時の備えとして導入した。晴天時の最大出力は約80%。コンセント

なすを通じて照明やパソコンに利用できる。4時間の蓄電でスマホ数十分分の充電に相当する。導入費用はバッテリーやガラスへのはめ込み費などを含め、700万円ほどだという。

太陽電池は直径1・2センチと小さく、窓から屋外の様子も見える。奥山光一町長は「停電に対応できるだけでなく、遮光にも役立ち、夏場は部屋の温度の上昇を抑えらる」と期待する。

球状太陽電池製造スフェーラパワー

町長室窓に太陽電池が入ったガラス窓と奥山光一町長。電気は手前のコンセントで使える

新庁舎ここが自慢